



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジ：ナーフ皇太子（内相）の死去（6月16日）

2012年6月16日、サウジのナーフ・ビン・アブドゥルアジーズ皇太子が死去（享年79歳）。同皇太子は、1975年から内相を勤め、2011年に皇太子に任命されるなど、サウジの王族の有力者として知られていた。最近では体調を崩しており、2012年3月に米国で手術、同5月から療養生活を送るなどしていた。

同皇太子は、アル=カーイダをはじめとする国内の反体制派の鎮圧・弾圧で業績を上げた。一方で、保守的な宗教界と良好な関係を構築し、アブドゥラー国王が講じた諸般の改革措置に慎重な態度をとった。対外的には、イランに対し強硬な立場をとったほか、チュニジアのベン・アリー前大統領の亡命受け入れ、バハレーンの抗議行動鎮圧のための派兵で役割を果たした（2012年6月17日付『ナハール』）。

現時点で次の皇太子は任命されていないが、アブドゥラー国王（88歳）の異母兄弟から任命される場合、今後もかなり高齢の王族が後継者となる。長期的には、国家警備隊、正規軍、内務省などで次官・副司令官などの実務的な地位についている現在の主要王族の息子世代の間で、どのように権力の分有や利害の調整が図られるかが注目点となろう。